



生態工房

公園や緑地などの環境を保全し、生き物との出会いや学びの機会を提供する生態工房。井の頭池では、水質改善と在来種保護のため、行政・市民と協働で池の水を抜く「かいぼり」を行っています。



認定NPO法人生態工房スタッフの皆さん

大学院生らによって設立された武蔵野市を拠点に活動する自然や生き物の専門家集団

「自然は多種多様な生き物によってつながり、独自の生態系を形成しています。多様な生き物がすむことのできる環境を育む手助けをするのが私たちの役割です」と語るのは認定NPO法人生態工房職員の内木愛さん。

生態工房は、さまざまな現場での実践を通して、生物多様性保全に貢献するための知見や技術を調査研究・開発・公開する市民活動団体です。具体的には、「自然や生き物の専門家集団」として生物の調査、緑地や水辺の管理作業、外来生物の防除、人材の育成や市民活動への支援を通して、地域固有の生物相を復元・保全する活動を行っています。公園管理者（行政や指定管理者）から受託し、平成25年度から数年ごとに井の頭池の水を抜く「かいぼり事業」では、小学生を中心に魚とりを体験する「おさかなレスキュー隊」などの市民参加活動の運営に携わり、行政と市民をつなぐ役割を担っています。



池に水がある期間は、アメリカザリガニの防除を実施

水鳥のモニタリング調査も実施。種類・行動などを記録する

在来生物のより良い生息環境の整備にも取り組んでいる

かいぼり中の池底ガイドツアー

井の頭池の「かいぼり」で本来の自然を取り戻す

「農家が農閑期にため池の手入れのために水を抜く『かいぼり』を公園に応用したのが『井の頭池かいぼり事業』です。50名ほどのボランティアで構成される『かいぼり隊』と協力しながら、在来種の魚などは保護し、それらを脅かす外来種は取り除きます。その後1〜2カ月ほど池底を干すことで、窒素やリンが減少して水質が改善され、在来種のすみやすい環境がよみがえります」と八木さん。かいぼり後の地道なモニタリング活動で経過を観察しケアを続けた結果、池の水草やトンボも増加しているそうです。

「今後も、専門家のまなざしで行政や市民の方たちと協力しながら、人と生き物の接点を増やしていきたいです」

認定NPO法人生態工房

公園内のビジターセンターなどで活動していた大学院生らによって平成10年に設立。緑地の保全・復元・管理をはじめ、市民参加プログラムの推進、環境学習などにも取り組む。平成26年、事務局を杉並区から武蔵野市に移転。現在、役員6名、常勤職員9名で活動する。